

विहार

2024(令和6)年度

教区ビハーラ代表者会(Web) 報告書

1. 日 時 2024(令和6)年11月22日(金) 14:00~15:20
2. 開催方法 Web 会議にて開催 宗派会場：伝道本部3階 会議室⑦
3. 出席者 会 長 弘 中 貴 之 (総務)
常任委員 藤 井 哲 雄 (第1連区代表<新潟>)
小 川 真理子 (第2連区代表<岐阜>)
教区代表者 32名(代理出席者含む、常任委員除く)・・・名簿別紙
副 総 務 加 藤 尚 史
事 務 局 秦 明 人(社会部長)
川 井 周 裕(社会部課長)
小笠原 壹 哉(社会部事務職員)
生 田 久 美(社会部事務職員)
4. 報告事項 (1)2023(令和5)年度 事業報告について
(2)2024(令和6)年度 事業現況について
(3)次期中・長期計画について
(4)ビハーラ活動実践僧侶養成講座について
(5)第29期ビハーラ活動者養成研修会について
(6)その他

5. 報告内容

定刻に至り、事務局より出席者並びに資料の報告等が行われ、弘中会長より挨拶の後、Web 会議ホストが宗派会場のため進行は事務局が行った。

報告事項

(1)2023(令和5)年度 事業報告について

事務局より、資料に基づき2023(令和5)年度の事業について報告。主に第18回ビハーラ全国集会、また、ビハーラ活動実践僧侶養成講座、ビハーラ活動に関する研修会講師派遣制度、ビハーラ活動に関する動画配信について報告。

→特に意見・質問等なし。

(2)2024(令和6)年度活動現況について

事務局より、資料に基づき2024(令和6)年度の事業現況について報告。連区研修会の開催状況、第28期ビハーラ活動者養成研修会について、ビハーラ活動に関する研修会講師派遣制度について報告。

<主な意見・質問>

〈福岡・藤代表〉

- ・ビハーラ活動者養成研修会について、申込み定員は各教区 1 人か 2 人ではなかったか。今回大阪教区から 6 人の申し込みがあるが人数は気にしなくていいということか。
- 第 28 期の受け入れ当初は 30 名を想定し、各教区 2 人を目処に考えていた。しかし、申込状況により定員に達するまでは受け入れた。

〈和歌山・中田代表〉

- ・過去に養成講座を受けた方より、当時のカリキュラムも違ってきており、今後オンラインで聴講との要望がある。
- 習礼教修所の設備環境等の問題もあるが前向きに検討していきたい。

(3) 中・長期計画について

事務局より、中・長期計画について資料に基づき説明。

→特に意見・質問等なし。

(4) ビハーラ活動実践僧侶養成講座について

事務局よりビハーラ活動実践僧侶養成講座について資料に基づき説明。

<主な意見・質問>

〈東北・根本代表〉

- ・病院勤めの経験があり、今回ビハーラ活動実践僧侶養成講座に参加した。私の経験ではとても追いつかないところがあったが、受講してためになった。
 - ・実習を取り入れるとのことだが、患者さん自身との関わりの中に入っていくということは指導される方が大変ではないかと思う。
- 指導医師の方々や現場に入っておられるビハーラ僧の方にも協力をいただきながら、研修に入る前には注意事項なども確認をしながら実習に入っていたらと考えている。

(5) 第 29 期ビハーラ活動者養成研修会について

事務局より、第 29 期ビハーラ活動者養成研修会について資料に基づき説明。

<主な意見・質問>

〈福岡・藤代表〉

実際の願書はいついただけるのか。

→宗門の予算編成が決定後、速やかに案内を行う。しかし、日程については説明で伝えた通り変更はないことから、お声がけをお願いしたい。

(6) その他（令和 6 年能登半島地震浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センターについて）

事務局より、資料に基づき説明。

<主な意見>

〈福岡・藤代表〉

- ・交通費の持ち出しはどの程度になるのか。

→2泊3日のサロン活動期間中の県内における交通費と宿泊費は支援センターにて支弁

する。石川県までの交通費、食事についてはご自身にて負担いただきたい。

〈長崎・三浦代表〉

- ・第 5 連区の協議会の社会部からの説明にて、中央仏教学院やあるいは得度習礼の場面でビハーラ活動について全く触れられる機会がないという話は、総局も共通の認識はあるのか。

→ビハーラ活動の講義や紹介をカリキュラムに含めるよう、担当部と調整している。

〈山口・教区事務担当者〉

- ・全国集会において講演内容や分科会内容について録画されていたと思うが公開される予定はあるのか。

→全 12 の分科会それぞれビデオカメラを設置し撮影記録を撮ったが一部音声に不具合が生じている。分科会によって参加人数、進行が異なるため、参加者の発言等々に配慮しながら、ぜひとも公開したいと考えている。なお、ご講師の方からは公開の許可を得ている。

以 上

報告者：社会部事務職員 生田久美